



有名展示会だけじゃないパリ ～パリの日本関連イベントやスポットをご紹介します～

(一財)自治体国際化協会パリ事務所次長 古橋 悦子 (東京都派遣)

パリでは、世界的に有名な展示会、例えば「メゾンエオブジェ」、「サロンデュショクラ」、「パリ国際観光見本市」などが多数開催されています。また、日本でもすっかりお馴染みとなった「ジャパンエキスポ」では2015年には約25万人もの来場者が訪れました。

しかし、パリにあるのはこのような有名な展示会だけではありません。日本の伝統工芸品や特産品を売る店舗は結構存在します。街中には、和食レストラン（残念ながら中国人経営のお店が多いようですが）を至る所で見かけますし、日本のラーメン店の前には常に行列ができています。また、小規模な日本関連の展示会やイベントは多数開催されています。

日本文化がますます浸透してきているパリで開催した企画展の様子や、最近オープンした日本の特産品や伝統工芸品の展示・販売店舗の様子についてご紹介します。

パリ事務所企画展 「伝統と先端と～日本の地方の底力～」

パリ事務所では、パリ日本文化会館において、2月2日から13日までの間、企画展「伝統と先端と～日本の地方の底力～」を開催しました。この企画展は、日本の伝統技術と、その技術が異分野の先端産業に活かされ、あるいは、現代の生活スタイルに適応している事例の紹介を通じて、地方が持つ知られざるポテンシャルを分かりやすく発信することを目的として2013年度から開催しているものです。

この展示会では、実際に製品に触っていただくことにより、その質感や肌触りなどを体感し、見た目だけではない製品の良さを味わっていただくことができます。来場された方々は、フランス語で作成されたパンフレットを手にしながらか、じっくりとご覧になっていました。

3回目となる今回は、日本の優れた伝統技術や伝統的

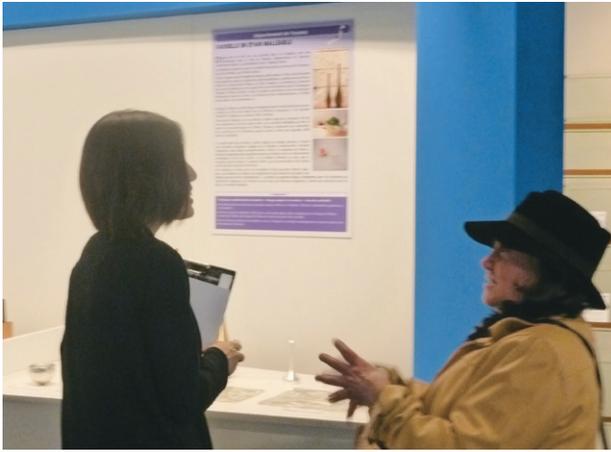
素材に新たな発想を加えたアイテムや他分野との融合により生まれたアイテムなど、14県市から約130製品が出展され、「日本フランス・イノベーション年の事業」としてフランス外務省の認定も受けました。

出展品とそれに対する来場者の反応をいくつかご紹介します。久留米絨は、福岡県筑後地方に伝わる綿織物ですが、その「くる」「そめる」「おる」という三つの技術は国の重要無形文化財に指定されています。今回の出展では、独特の風合いを活かし、現代的デザインを施し、日常を快適に過ごすパンツ（モンパン）とショールが出品されました。これらの作品は、フランスの方々から、「デザインがかわいい」、「履きやすそう」などの好意的な意見をいただきました。



久留米絨の展示品に見入る来場者

また、富山県からは、ユーザーが自由自在に形をアレンジできる「錫製の曲がる食器」が出品されました。これは、柔らかく曲がりやすい特性のために扱いつらいとされてきた錫を、高い技術力に裏打ちされた逆転の発想により開発された商品です。こちらについても、「曲げられるアイデアが素晴らしい」、「ぜひ購入したい」など



富山県の錫製食器の説明を受ける来場者

の賞賛の声を多数いただきました。

これらの来場者の方々の声は、今後の販売戦略や商品開発に役立てていただくことを目的として、毎年、出展自治体の皆様にフィードバックしています。

今年は、パリ日本文化会館での展示の後、16日から25日までの間、初めての試みとして、パリ中心部のショールーム兼店舗で展示販売を行いました。これまでの来場者の方々から、購入はできないのかという問い合わせが多数あったことから、その要望に応えるために実現したものです。展示品の中から、販売希望のあった製品を展示販売しました。実際に購入されたのは、そのうちの約2割でしたが、販売することにより、その値段設定がフランスの方々にとって実際に受け入れられるか、買いやすいか、あるいは高くて手が出ないのか、など知ることができる有益な機会です。展示の際の来場者の反応も重要ですが、展示のみならず販売することで、初めて製品のフランスでの市場価値を実感できるのではと感じました。



店舗での展示販売の様子

今年も、11月に同様の形で企画展を開催予定です。多くの自治体からのご応募をお待ちしています。

パリ・マレ地区で 日本の食と観光をPR

2015年6月26日(金)から28日(日)まで、パリの中心部マレ地区にて日本の食文化と観光をPRするイベント「C'est Bon le Japon! (セボンルジャポン)」が開催されました。2014年3月に続き2回目の開催となったこの催しに、クレアパリは日本政府観光局(JNTO)などとともに後援・ブースを出展しました。

マレ地区はアーティストなどが多く住む流行の発信地として知られており、無印良品やユニクロ等の日本企業のショップもあります。イベント会場は小規模な店舗の多いこの地区としては珍しい1,000m²ものスペースを3日間にわたって使用し、1万3,000人の来場者を記録しました。

クレアブースでは、自治体の観光パンフレットを配布し、職員が来場者に日本での観光に関する質問に答えました。フランス語版や写真を多用したものが特に人気で、各100部以上を用意したパンフレットは、初日でほぼなくなるほどの人気ぶり。日本への旅行に対する関心の高さがうかがえました。

来場者からの質問には、「東京、京都には行ったので、2回目の目的地としておすすめの地方を教えてください」「あまり知られていない小さな温泉地を教えてください」といったものがあり、「1回目で北海道から本州まで縦断し、2回目で四国を一周したので、3回目の九州旅行に向けて情報を探している」という方もいらっしゃいました。富裕層が多く集まる地区ということもあってか、すでに日本への旅行を経験し、いわゆるゴールデンルート以外への再訪を計画している方が多いように感じました。

1回目の旅行での訪問地を尋ねると、東京と京都以外では白川郷(岐阜県)や巖島神社(広島県)が多く、足を運んだ理由は「友人からのクチコミで評判が良かった」が多く上がりました。

今回、日本の自治体では熊本県球磨郡五木村が、村の特産加工品「山うにとうふ」(豆腐の味噌漬け)を製造する地元の企業(有)五木屋本舗を支援するかたちで参加しました。五木村は、かねて企業より海外への挑戦について相談を受けていたところ、今回、国の地方創生事



多くの人を集めた熊本県五木村の特産加工品「山にとうふ」



佐賀の日本酒が並ぶ「La Maison du Sake」店内

業（地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金）として助成を行い、出展する運びとなったそうです。

出展にあたり、(有)五木屋本舗はフランス語で食べ方や製法を紹介したパンフレットと400個の製品を持参。3日間ですべてを売り切り、来場者から商談の話も舞い込むなど、予想以上の成果が得られたとのこと。

セボンルジャポンは今年も6月24日から26日に実施予定です。

パリでの日本の特産品や 伝統工芸品の展示・販売

パリで最近オープンした日本関連の店舗とショールームを二つご紹介いたします。

○日本酒専門店でのブランディングサービス

2月中旬、パリで200m²を超える店舗に、居酒屋レストラン、酒バーおよび日本食材ショップなどを併設するパリ最大の本格的な日本酒専門店「La Maison du Sake」がオープンしました。オープンに先立ち日本貿易振興機構（JETRO）主催の「日本の郷土の食の宝商談会」が開催され、多くの来場者が訪れました。これは、日本各地で長い間愛され、日本のテロワールを感じさせる食品・飲料を中心にした商談会で、例えば、八丁味噌パウダーやミル付山椒など個性的な商品が並びました。

同店をプロデュースしたのは、パリ市内でミシュラン1つ星レストランを経営するフランス人です。ここでは、日本酒や日本の食品・伝統工芸品の展示・販売、試食・試飲、イベントが開催され、日本の地域産品のフランスでのブランディングサービスや販路確立の支援を行うと

のことです。

オープンした2月は、佐賀の日本酒特集ということで、ショーケースには佐賀の日本酒が一面に陳列されるとともに、レストランやバーでは佐賀の日本酒がお勧めとして紹介されていました。

○クールジャパンの発信拠点

日本の伝統工芸品などを取り扱い、地域産品PRの場として自治体に活用されているパリの和雑貨セレクトショップ「Discover Japan Paris」。2015年9月、その2号店「maison wa」がパリ1区にオープンしました。1号店の5倍以上となる160m²の広さがあり、地方自治体等が地元伝統工芸品の常設展示スペースを設けるなど、地方からのクールジャパンの新たな発信拠点として活用が期待されます。

フランス人の日本に対する興味は尽きることはありません。日系旅行会社の方によれば、昨年に起きた不幸なテロ事件後も、日本からの観光客は激減した一方で、日本へのパッケージ商品やオーダーメイドでの旅行の需要は衰えることがないとのこと。

クエアパリ事務所では、フランスでの特産品の販路拡大や観光プロモーションを行う自治体の支援も行っています。フランスでの経済活動にご興味のある自治体の皆様は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

(一財)自治体国際化協会パリ事務所
TEL : + 33 (0) 1 40 20 09 74
E-mail : contact@clairparis.org
URL : www.clairparis.org